

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

(1) 児童が見通しをもって主体的に取り組む学部集会の実施

小学部では、在籍児童数の減少等で、人と関わり合いながら協働して学び合う経験が少なく、考えや意見を伝え合う活動が不足しがちで、話し合いの場面では受け身的な姿がみられていた。そこで、学部集会等、校内における集団学習の在り方を工夫し、主体的に学習に取り組む態度を育てていくことにした。

学部集会や近隣校との交流及び共同学習の事前学習で、話し合いを通して、本番の流れや準備物を自分たちで考える機会を設けた。また、児童一人一人に応じて作成した「がんばり表」で、話し合いの際の目標を確認し振り返る時間を設けたり、学校生活の様々な場面において、役割分担などを児童主体で話し合っ決められるように支援したりしたことで、様々な場面で主体的に行動する様子がみられるようになってきた。

(2) 進路指導計画の確立と情報提供の充実

本校では、多様化する進路希望に対応して、早期からの個に応じた進路指導を求める声が上がっていた。また、近年増加している福祉就労についての情報が関係職員以外には十分に浸透していない面があった。そこで、校内の進路指導計画を確立し教職員間で共有したり、卒業後の進路先として想定される事業所等に関して教職員や保護者に情報提供したりすることにした。

校内においては、「進路指導マニュアル」を作成し、教職員に提示するとともに、その内容や関連事項について説明する機会を設け共通理解を図った。また、学校と家庭が連携しながらキャリア形成につなげられるよう、教職員や保護者それぞれを対象にした事業所見学会を実施し、就労継続支援A、B型事業所及び就労移行支援事業所や就労支援機関を訪問し、情報提供を進めた。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 特定の相手や設定された場面だけでなく、様々な場面で不特定の相手と、より適切な態度や話し方で主体的に関わりながら活動に取り組めるようになることが望まれる。教師がチームとして共通認識をもち、少人数できめ細やかな指導ができる強みを生かして、学校行事や地域の学校との交流及び共同学習の中で、子供たち自身が話さなければいけないという意識が高まるように、場面を捉え継続して支援していく必要がある。

(2) 本年度完成した「進路指導マニュアル」を基に、教職員間での共通理解を進めながらも、法律の変更等、その時々状況に対応して進路指導計画を見直していく必要がある。事業所見学については、今回いただいた感想や意見を基に、今後も継続していく必要がある。その際、本校在籍生徒の特性や強みを積極的に啓発していくことも大切である。また、卒業生のアフターケアの機会と捉え、過去の卒業生の様子にも気を配りながら、事業所で長く就労していくための一助にもしていく。

8 学校アクションプラン

令和6年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動
重点課題	児童が見通しをもって主体的に取り組む学部集会の実施
現 状	小学部では、在籍児童の減少や、視覚障害及び併せ有する障害の特性への配慮、コロナ禍における人との関わりの制限から、個別または、少人数グループで学習を行ってきたため、人と関わり合い協働して学び合う経験が少なかった。その結果、自分たちで話し合っ物事を決める場面では、どのように話し合ったらよいか分からず、教師や発言する友達の意見を聞いて、受け身的に学習に参加する姿がしばしば見られた。そこで、児童が活動の流れに見通しをもち、友達と協働しながら主体的に学習に取り組むことができるようになるための学習の工夫と経験が必要であると考え。
達成目標	① 話し合い活動を取り入れ、児童が主体的に計画、進行する学部集会の実施 年3回以上 ② 実態や役割に応じたがんばり表の、個々の児童の目標達成率 7割以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな流れを一定にした学部集会を学期ごとに実施し、それぞれが役割を分担して計画や準備、進行などを行えるようにする。さらに、他の教科や交流及び共同学習など学習活動の様々な場면을捉え、友達と役割を分担し合ったり、話し合い活動を取り入れたりする機会を設定することで、見通しや責任をもって活動に取り組んだり、自分の気持ちや考えを、適切に伝えたりすることができるようにする。 ・本時の目標を教師と一緒に考えてがんばり表に記入することで、自ら目標達成に向けて、主体的に学習に取り組もうとする意欲を高める。 ・活動の事後には、がんばり表を基に振り返って達成度を確認し、周囲の人に伝える学習を行うことで、人と関わる楽しさや次回への期待を高め、主体的に取り組むことができるようにする。
これまでの取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は学期末に学部集会を1回、2学期は藤ノ木小学校との交流及び共同学習での集会を2回実施した。事前学習では、児童が二つのペアに分かれて役割分担して話し合ったり、互いの取組を報告し合ったりする機会を設定した。特に交流集会の事前学習では、動きや流れ、必要な道具等を自分達で確認し、教員が相手校の児童役になってどのように準備したり伝えたりしたらよいか、児童が考える機会を設けた。 ・授業の事前と事後には、児童一人一人の実態に応じて、話し合いの際に気を付けることやがんばることを教師と相談して決め、作成したがんばり表の内容を確認したり振り返ったりする時間を設定した。 ・これまで教員主導で行っていた掃除や号令の当番など、学校生活の様々な場面においても、機会を捉えて児童主体で話し合っ決めることができるように支援した。支援に当たる教員間で連携し、児童が考えて取り組む時間を十分に設けたり、困りそうな場면을意図的に設定したりした。 <p>以上の取組の結果、ペアの友達に適切な態度で話し掛けたり、主体的に働き掛けたりして話し合いを進めて準備をする姿、交流集会では活動の流れに見通しをもち、司会や挨拶などの進行を主体的に行う姿がみられた。また、学校生活の様々な場面で、自分たちで話し合っ役割や進め方を決めようという意識が育ち、児童自らが話し合いを提案して、自分の気持ちを伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら、役割や活動を決めていく様子が見られるようになった。</p>
評 価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部集会1回、藤ノ木小学校との集会2回の計3回を実施 ・話し合い活動最終日のがんばり表の目標達成率は平均7割5分
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がチームとして共通認識をもち、少人数できめ細やかな指導ができる強みを生かした取組であり、児童が「できる」と感じ、生活につながった実践となった。 ・学校行事や地域の学校との交流の中で、子供たち自身が話さなければいけないという意識が高まるような取組を、今後も場면을捉え継続して支援して欲しい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の相手や設定された場面だけでなく、様々な場面で不特定の相手と、より適切な態度や話し方で主体的に関わりながら活動に取り組めるよう、支援を継続していく必要がある。

令和6年度 富山視覚総合支援学校アクションプラン — 2 —

重点項目	進路支援	
重点課題	進路指導計画の確立と情報提供の充実	
現 状	<p>本校では、多様化する進路希望に対応して、早期からの個に応じた進路指導を求める声が上がっている。また、近年、福祉就労が多くなっており、事業所の実態や就労までの手続き等の流れについて、一部の教職員以外には情報が十分に浸透していない面もある。このような現状を踏まえ、本校の進路指導計画を確立し教職員間で共有し、卒業後の進路先として想定される事業所等に関して教職員や保護者に情報提供することが必要だと思われる。</p>	
達成目標	<p>①「進路指導マニュアル」を作成し、教職員に説明する機会を2回設ける。 ②教職員及び保護者を対象とする「事業所見学会」を各1回以上実施する。</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度版「進路指導マニュアル」を作成し、校内教職員に配布するとともに、各学部における進路指導年間計画や就職及び進学に関する手順等について説明する機会を設ける。 学校と家庭とが連携しながらキャリア形成につなげられるよう、教職員や保護者を対象に「事業所見学会」を実施する。 	
これまでの取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 達成目標①について 「進路指導マニュアル」を12月に完成させることができた。またその内容や関連事項について、12月及び1月の職員会議終了後に説明する機会を設けた。 達成目標②について 事業所見学会については、8月に教職員を対象に2回、11月に保護者を対象に1回実施した。見学先については、就労継続支援A、B型事業所及び就労移行支援事業所や就労支援機関を中心に選定し実施した。 <p>参加者アンケートより（満点4） 教職員の感想・意見 ※実施時期平均評価 3.1 見学先の選定平均評価 3.4</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の事業所を見学する機会があつてとても良かった。 各事業所の見学や事業所間での移動について、時間的な余裕があればよかった。 視覚障害に理解のある事業所の見学先があればよいと思った。 <p>保護者の感想・意見 ※実施時期平均評価 3.3 見学先の選定平均評価 3.6</p> <ul style="list-style-type: none"> 見学したいと思っていた事業所へ訪問することができて良かった。 今すぐには利用できない事業所かもしれないが、今後の進路先を考えるうえで大変参考になった。 	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> 「進路指導マニュアル」の完成が年度の後半になったため、教職員への周知時期も遅くなり、有効に活用することができなかった。 事業所見学会については、教職員、保護者からおおむね良い評価を得た。今後の継続を希望する声もあった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 「進路指導マニュアル」については、法律の変更等、その時々に対応した内容になるよう見直していく必要がある。 「事業所見学会」の機会に、本校在籍生徒の特性や強みを積極的に啓発していくことが大切である。また、卒業生アフターケアの機会ととらえ、過去の卒業生の様子にも気を配りながら、事業所で長く就労していくための一助にもなればよいと思う。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 本年度完成した「進路指導マニュアル」を基に、教職員間での共通理解をより図っていく必要がある。また、進路指導年間計画を進学、就労に向けて、必要に応じて適宜見直していく必要がある。 事業所見学については、今回いただいた感想や意見を基に、今後も継続していく必要がある。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)